

セキュリティ対策

-58-

独立行政法人情報処理推進機構（IPA）では、全国の中小企業に勤務する従業員1000人に対してサイバーセキュリティに関するアンケートを実施した。その結果、会社や上司に報告されるトラブルや社外へ公表・公開される事例は氷山の一角であって、これを相当数上回る「隠れ

サイバートラブル」の存在がうかがえる結果となった。従業員は41.0%にとどまった。

■中小企業のサイバーセキュリティトラブル
勤務先の中小企業に

過去3年間にサイバーセキュリティ上の事故やトラブルを経験した中小企業従業員は10.5%で、トラブル1位は「ウイルス・ラ

「ルールは理解しているが、それを守る意識が希薄だった」48.1%、2位「ルールは理解していたが、正しい手順や対応方法などの知識や理解が不足していた」33.3%と、ルールをクリックし、個人

も報告を行わなかった人は43.2%に上った。ルールに違反した理由については、1位は「自分の利用している端末がウイルス・ランサムウェアなどに感染して、実際の被害は報告された」という結果になっており、明らかに「隠れサイバートラブル」が存在しているものと考えられる。

「お助け隊」
「お助け隊」
「お助け隊」

隠れサイバートラブルに注意

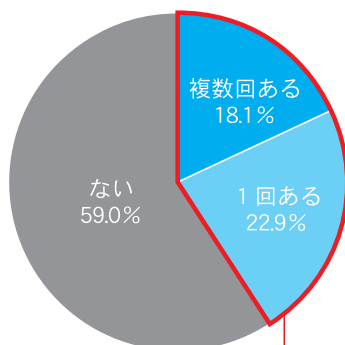
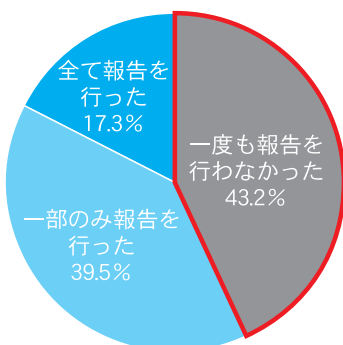
ンサムウェアによる被害、2位は「取引先を装った偽メールによるウイルス感染」と、結果となった。

また、情報管理関連のルールがあると同答した人のうち、過去3年間でそのルールに違反したことがある人は19.0%で、その違反を

「お助け隊」
「お助け隊」
「お助け隊」

「お助け隊」
「お助け隊」
「お助け隊」

サイバーセキュリティに関するアンケート結果
(トラブルの報告や公開)



ルール違反を会社や上司に報告したか

公表・公開した41.0%
サイバーセキュリティ上の事故やトラブルを社外に公表・公開したか

